

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年2月8日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.88】

東労組役員は命を狙われる松崎氏の別荘保有を当然視！

松崎氏は沖縄の別荘を、自らも含めて内ゲバの被害者の保養所として利用する目的で購入したと推測される。一般の組合員には到底理解できない話だが、JR総連・東労組の執行部は、それを当然視していたようだ。既出の東労組元中央執行委員の本間雄治氏(現・JR労組委員長)は2009年3月3日の「週刊現代裁判」の尋問で以下の通り証言している。

(被告代理人)その当時(注:松崎氏が沖縄別荘を利用していた頃)は、松崎さんが秘密の別荘というんですか、あるいは隠れ家というのか、こういったものを持つのは当然だと思っていたんでしょうか。(本間)思っていました。(代理人)それはどういうことで、そのような認識だったんですか。(本間)やっぱり、革マル派としても、あるいは私たちにとっても、そういった指導者でしたので、いろんな党派から命を狙われるだとか、そういうことで、いろんなところに身を隠す場所があって当然だというふうに思っていました。

東労組役員で松崎氏の方針に異議を唱えられる者は誰もいない！？

松崎氏を尊崇する東労組の執行部は、様々な党派に命を狙われるリーダーが身を隠す別荘を持つのは当然と考えていたそう。今もその意識に変化はないだろう。本情報の「No.67」～「No.74」のおさらいになるが、本間氏が松崎氏の絶対権力に関して、非常に興味深い証言をしているので、続けて紹介しておきたい。

(被告代理人)前回の証言で、石川さん(注:東労組前委員長)が松崎さんにボディガードの役目を果たす人を付けていたとか、あるいは車を無償で貸しているということを認めているんですけれども、こういったことについて、本間さんご自身で何かご存知のことというのがありますか。(本間)車は...全部、本部の持ち物だったんですけれども、知っていることといえば、三菱のプラウディアを買うときに、松崎さんは本当はセルシオが欲しかったというふうに言うておりましたけれども、セルシオの納期が半年ぐらい掛かってしまうというので、三菱になったというようなことを記憶しております。(代理人)そうすると、松崎さんが自分で車種も選んでいたということですか。(本間)そういうことです。(代理人)そういった車というのは、松崎さんが自由に使っていたんでしょうか。(本間)自由に使っていました。-(中略)-(代理人)陳述書ですと、さつき企画の社長に松崎明さんの息子さん(注:松崎明)が就任していることを触れられていますね。(本間)はい。(代理人)さつき企画というのは組合役員というか、あるいは組合を退職された方の再就職を目的とした会社ということでしょうか。(本間)その通りです。-(中略)-(代理人)そういった会社に東労組と関係がない松崎さんの息子が社長となっているということについて、どういうふうにお考えになりますか。(本間)公私混同だと思います。(代理人)どうして、そういうことが可能になったんでしょうか。(本間)松崎さんの力がやはり非常に強くて、それにものを言う人間がいなくて、まあ、言葉で言うと好き放題といいますが、そういうことを許してしまった結果だと思います。(代理人)松崎氏の方針に異議を唱えると、どういうことになるんでしょうか。(本間)私どものように追放されたり、懲戒処分を受けると、役員を外されるだとか、そういうことになると思います。(代理人)手続きがどうかは別として、実質的には松崎さんの意に添わないことをすると、そういう結果が待っているということなんですか。(本間)そうです。(代理人)松崎さんというのは、それほどの力を持った方というふうにお聞きしてよろしいでしょうか。(本間)その通りです。